

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）
研究交流報告書①

報告日：2019年2月7日

招聘者氏名	濱田 麻矢・藤田 裕嗣
被招聘者氏名	張 修慎
被招聘者 所属機関・職位	中華民国・静宜大学・教授
<p>ご来日2日後の1月23日には打ち合わせのため、神戸大学にて調整を試みた。</p> <p>講演会は28日夕方に設定し、かつて本学文化科学研究科助手を務められた濱田琢司南山大学教授にコメントを頂いた。女性院生などとの交流を深めることができた。</p> <p>ご自身がかつて日本に留学して、京都教育大学で地理学の指導も受け、博士課程の大阪大学は京都を拠点に通学されたご経験を十分に生かして、上記の交流以外はご自身で調査をされたと聞いている。</p> <p>張教授からは、所属されている静宜大学との提携を打診されている。招聘者のうち藤田は、静宜大学をかつて卒業して、日本に留学し、修士課程は三重大学を経て、博士後期課程から本学に進んできた女性留学生を指導した結果、台湾に関する「観光地理学」をテーマとした博士論文として、実を結んだ。張先生に彼女の研究内容をご紹介したところ、先生ご自身による研究の今後の発展のため、参考になる、との評価を受けている。さらには、博士号取得者との関係では、静宜大学との提携にも、プラスに働くであろう。</p>	

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）
研究交流報告書②

報告日：2019年2月7日

招聘者氏名	濱田 麻矢・藤田 裕嗣
被招聘者氏名	李 光貞
被招聘者 所属機関・職位	中華人民共和国・山東師範大学・教授
<p>2019年2月18日16時より開催された李教授による講演会終了後、以下の研究交流が行われた。</p> <p>海港都市研究センターでもかつて青島調査を施しており、それを担当した本学女性教員の一人から、青島で今も見られるアカシアとサクラ、といった植物のほか、日本人が残した景観と言える青島神社などについてコメントがあった。山東省の代表的な都市の中でも済南／青島は、特徴的な対比関係があるのでは？という質問もあり、李教授は、両者の違いについて説明され、田舎臭い（泥臭い）／都会的だがずるがしこい、とでも表現し得る、相互不信の面まで言及された。</p> <p>最後に、招聘者の一人である藤田が、専門とする地理学研究の立場から、新しい研究動向として、文学作品も取り入れようとしている点に言及し、イメージ研究、と総括した。日本と中国、地理学と文学研究と言った、今後のさらなる研究交流の可能性が、示唆されたし、女性院生などとの交流を深めることができた。</p> <p>2月19日には、神戸大学男女共同参画推進室において、李教授の所属先、山東師範大学における女性教員の位置付けなどの調査を行うと共に、推進室所属の女性教員とダイバーシティ研究環境の実現について意見を交わした。</p> <p>その他、滞在中を通して、招聘者との李教授との間で山東師範大学と神戸大学との間で今後の研究交流の可能性について具体的に検討するため、神戸大学において意見調整を試みた。</p> <p>さらに、神戸大学滞在中、陳舜臣アジア文藝館や神戸華僑歴史博物館など、文学や歴史に関する神戸の博物館調査を試みられた。そこでの中国語のキャプション類にみられるケアレスミスについて指摘されるなど、貴重な意見をいただいた。特に後者の博物館には、神戸大学出身の研究者も少なくなく、先方に伝える旨約束した。</p>	

その後の研究交流の進捗状況 (2019年2月現在)

2回目の山東師範大学との研究交流に関して、9月に藤田が先方へ赴き、講演を行った翌日には、今後の研究交流について意見交換会も開催された。そこで藤田からは、人文学研究科海港都市研究センターについて実質的な代表者としての副センター長を務めた経験に基づき、長年の実践について簡単に報告した。その後、山東師範大学の揚副教授と名刺交換した。彼女は、センターが国立台湾大学で主催したシンポで、中国海洋大学から院生として発表し、その後、関西大学を経て、山東師範大学に赴任した、と聞いた。院生による「海港都市研究」を育てる、という創始者の佐々木衛先生が考えられた通りのご経歴、と評価される。